

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000417		
法人名	社会福祉法人すばる		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	江別市大麻北町608番地の3		
自己評価作成日	令和5年2月13日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物は木造で古くなってきていますが、それが温かみのある、自宅での生活を感じられるような環境になっています。
 ・入居者全体が高齢化してきているため、体を使った活動的な行事企画は少ないですが、個々人の状態を考慮した穏やかな生活を送ることができています。
 ・医療体制は藤花会グループと提携しており、不測の事態や訪問看護など医療面では他グループホームより充実しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171000417-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内には多様な福祉事業所が隣接しており、非常時等で協力体制にある。理念を見直す機会があり、職員間での話し合いから1日1回でも利用者の笑顔が見たい、笑顔溢れる生活を送って頂きたいとの思いから「一生一笑」と策定し、実践に努めている。利用者の外出したい、職員はその思いに応えたいとドライブで牧場型商業施設に出かけ、アイスクリームを食するなど気分転換に繋げている。コロナ禍の状況を見極め、ドライブで桜並木を見物する計画を立てている。職員は、利用者や家族の意向に沿いたいと管理者に意見や提案を伝えており、利用者のより良い生活を支えている。感染症拡大防止により共用空間や居室の掲示物は取り外しているが、徐々に元の状態に戻すことを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は作れたが全員が共有して実践につなげている点についてはまだまだだと感じる	理念の見直しを図り、職員の話し合いの中から利用者の笑顔を見たい、1日の内1回でも笑顔になって欲しいとの思いを込めて「一生一笑」と策定している。管理者は、理念の共通認識と実践に向けた取り組みを検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中々交流をしたいと思う中、どのようなアプローチをしたらよいかわからないている。	町内会の情報は運営推進委員である自治会長から得ているが、コロナ禍により交流は自粛状況にある。感染症の収束後は、再び中学生の職場体験やボランティアの受け入れ等を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅支援事業所や直接の資料請求や相談、見学申し込みが来た場合は都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、運営推進会議を集まって行う事を暫くしていないため、紙面で利用者情報の報告や事故の状況、ワクチン接種などの情報を発信している。	感染予防により会議は書面とし、利用者状況や行事・活動報告、感染症状況、ヒヤリハットや事故の内容等を議事録に明記し、各推進委員に届けている。推進委員の意見により事故報告の明確化が実現している。幅広い意見の収集を課題としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月月初に入居者状況を報告しており、担当者情報連絡をしている。	行政に関わる事案については管理者が担っており、事故報告提出や介護保険更新時等は、担当窓口を持参して状況説明や手続きを行っている。また、FAXや電話等でも情報交換が行われ運営の向上に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で虐待及び抑制防止委員会を作り、年4回以上の研修(オンライン研修)を行い日々のケアに努めている。 また、新規採用職員には身体拘束に関する研修を行っている。	身体拘束等適正化については法人全体で取り組み、指針を整備し、毎月の委員会、状況により臨時招集をかけての委員会を行い、各事業所職員に周知している。随時の研修会で、職員は内容の理解に努め、利用者の身体に変化があった時は写真に撮り、検証を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待及び抑制防止委員会を作り、年4回以上の研修(オンライン研修)を行い日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加出来ず、施設内の勉強会も実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居者の契約時には契約書の説明を行いました承を得て取り交わしている。契約変更については、案内を出し説明をしたうえで同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があった場合、すぐに実行できることは職員と話し合い実施していく。また、要検討の場合は、法人役員会で検討する。	利用者や家族の要望には、可能な限り対応している。利用者の外出希望には、連れ立って散歩に、家族から中の様子が知りたいとの申し出には、オンライン面会で対応している。写真掲載の事業所便りや個別に担当職員による手紙や写真を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の会議で運営に関する報告を行っている。職員の意見や提案は業務の中で打ち合わせを行い、意見をまとめて法人本部役員に報告・検討し対応している。	ユニット会議は、事前に書面で収集した意見をまとめ閲覧で周知している。利用者中心の意見や提案の中で、食事席の変更が実現している。月2回の法人会議では、管理者が事業所の実情を伝えている。職員は、行事等を分担して自己研鑽に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の条件に合わせてシフト作成や業務内容の見直しをかけて無理のない業務を遂行できるよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でのオンライン研修が多いが、各職員の状況に合わせた研修を実施しステップアップを出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作っている「あおいの会」で企画している「グループホーム交流会」に参加していたが、近年は役員を派遣できず参加できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人や家族、現在使っているサービス情報を受け、職員が本人家族の思いを共有できるようにし、早く施設に馴染めるように関係を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族からの情報や本人の思いをくみ取りニーズに応えられるよう情報を共有していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、関係機関等から情報を収集し、サービス内容を事前に検討してから受け入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ、モップかけなどの作業をできる人には手伝ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事は感染対策上難しいため、主に面会にて本人の情報共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外で以前近所に住んでいた人とか知人という方が面会に来られても拒むことはしていない。	感染症を見極め、形態を変えながら家族や友人の面会を受け入れている。手紙や電話の取り次ぎ、入浴時での昔話を共有するなど、利用者の馴染みの関係維持に努めている。ドライブで車窓からの桜並木見物を計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の状態を把握し、食事席の配置やレク参加について良好な関係が作れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方のご家族から相談、連絡があっても丁寧に対応している。また退院見込みがなく退所になった場合は、その後の経過を確認するため連絡を取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中から思いを汲み取ったり、物言えぬ利用者には家族から情報を収集したり今までしてきた生活をできる限り近づける支援をしている。	利用者が意向を表すことは少ないので、関わりの中や個人記録、家族からの情報等を加味して推し量っている。内容によっては、ケアプランに反映して意向に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問で家族等から情報を得るとともに、入所後もご家族と情報交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での記録や特筆することがあれば記録を行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の現状を把握し、課題を検討し計画作成をしている。	ケアプラン作成時は、事前に得ていた利用者や家族の生活への要望を踏まえ、医療従事者の所見も参考に定期的にあセスメントを行い、支援目標を策定している。	ケアプランにおける支援目標の実践を確認できる記録の整備により、ケアプランの見直しに生かせる取り組みを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で、外のサービスを利用できていないため法人内のサービスが主になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年と同様ボランティア等の地域資源の活用はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による訪問診療が月4回、訪問看護が週1回、精神科医師の訪問診療が週1回、皮膚科往診、歯科受診を随時行っている。	利用者の健康管理は、協力医による往診体制、外来受診、訪問看護師によって行われているが、日常的には、職員の観察力によってちょっとした変化にも対応ができています。外来受診は、家族対応を基本としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所時に相談したり、休日・夜間は電話での相談・指示の対応をしてくれている。 また平日の日中は協力医療機関の看護師が相談に対応してくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすぐにMSWと関わり、入院中や退院に向けての連絡相談体制を作るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約説明の中で、重度化・看取りの説明を行っている。 状況によって主治医とともに今後の対応について話し合う場を設けるようにしている。	入居時に、重度化や終末期における対応を説明後に同意を得ている。重篤時は、主治医や家族と方針を共有し、看取り支援を行う態勢にあるが、これまでは家族の意向により生活拠点を病院に移している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはマニュアル等で周知しているが、定期的な訓練・確認は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階の消防訓練を実施しており、職員も避難手順を理解している。	利用者参加で日中の火災を想定した避難訓練を行い、消火器の使い方、通報訓練等を行っている。次回は、地震後の火災想定訓練を計画しており、1次、2次の避難場所の確認、備蓄品の用意等で非常時に備えている。	さらに加えて、避難場所への実践的訓練や排泄や入浴時等、あらゆるケア場面での対応、地震以外の停電、大雨など考えられる災害を想定しての対応策も視野に入れた取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックにならないように日頃から気をつけて接している。	申し送り時は、利用者を見守りながら聞かれないように気をつけ、個別の記録物も十分に配慮して取り扱っている。適切な言動のありかたは、管理者が業務の中で注意喚起を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな場面で意向を確認したり、選択の判断を問うような対応をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間などは、できるだけその方の状況に合わせて柔軟に対応するように話し合いを持っているが、職員の都合に合わせて対応になることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容ではその人に合わせたヘアスタイルにお願いしている。服装はその人の好みに寄せて用意して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けに気をつけながら、利用者様の好みに合わせて食事を提供しています。職員と一緒に食事はしていませんが、後片付けはできる方をお願いして一緒に行っています。	食事は、外食業者を利用しているが、1週間に1回は手作りで利用者の好み等を取り入れ、ちらし寿司など彩りや味付けに配慮して利用者の食が進むよう努めている。誕生日は、ケーキでお祝をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量ともに毎日記録しており、健康状態に配慮して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて、毎食後に口腔ケアをおこなっている。夕食後は義歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の能力に応じて、使用パットを選定しトイレでの排泄が継続できるよう支援をしている。	利用者の意思でトイレへ、そわそわしている動作等でトイレへ誘導、ベッド上での支援など、羞恥心に配慮して対応している。衛生用品の使用時は、職員間で協議の上、家族に排泄状況を説明し同意を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、食事量・水分量を考慮しながら排便パターンを把握したり、機能訓練や体操など取り組んでいる。他に、下剤調整を行い排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう、支援しているが個人の希望に合わせて行える状況にはなっていない	シャワー浴は脱衣室を暖かくし、足湯と身体にはバスタオルを掛け、湯船の湯をかけるなど、冷え対策をしている。利用者からの同性介助や回数、湯加減などの要望に応じ、寛ぎの中から昔話や何気ない会話で弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食や昼食後に横になってもらったり、TVを見て就寝時間が遅くなる場合もあつたり、遅く寝て朝起きられず朝食時間が合わなくなったりすることを容認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員には入居者の処方薬の説明書をすぐ確認できるように場所を決めてあり、		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせて手伝ってもらおうようにしている。飲酒は健康や他の人に迷惑の掛からない範囲では自由だが、現在は希望がないため提供はしていない。喫煙はH29年4月から施設内禁煙としている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響もあり、個別外出等の支援は実施できていないが、多人数参加の外出レクは行えた。	コロナ禍により自由な外出が困難な中でも、敷地内の散歩や玄関前の花壇の水遣り、換気時に風を感じるなど、外気に触れる機会を作っている。利用者の外出要望と職員の意向により、ドライブで商業施設を訪れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時でなければお金を使う場面がなく、日常生活でも管理能力にも不安・問題があるため、支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時は都度対応している。手紙やハガキは利用者様にお金を出して頂いてこちらで準備をする。その後ポストへ投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには掲示物等は貼っておらず穏やかに過ごしていただけるようにしている。	現在は、感染症対策として共用空間の掲示物等を取り外しているが、状況に鑑み、元の状態に戻す状況にある。リビングの他にセカンドリビングが2カ所あり、利用者は自分の居場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席に配慮して居場所づくりをしている。また、サイドリビングもあるので利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使っていた物や思い出のあるものを使用して頂いたり過ごしやすい環境になるよう努めている。	居室は、和室と洋室があり、コロナ禍以前は壁面に飾り物を貼っていたが、現在は何も無い状態にある。タンスや仏壇、冷蔵庫やテレビ等を持ち込み安心感ある環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札をつけたり、ご自身でトイレに行かれる方はわかりやすい目印をつけわかりやすいようにしている。		